

ムソルグスキー「展覧会の絵」解説！

作曲者・プロムナード・ラヴェル編曲・各曲の情景

作曲者

- ムソルグスキー
- ロシアの作曲家
- ロマン派・国民楽派
- ロシア五人組の一人



『展覧会の絵』 テスト対策 ポイント

ラヴェル編曲

- フランスの作曲家ラヴェル
- 「管弦楽の魔術師」
- ピアノ曲を管弦楽版に編曲



作曲のきっかけ

- 友人ハルトマンの遺作展
- 展覧会で見た絵の印象を音楽にした
- 原曲はピアノ独奏曲



プロムナード

- 「散歩」「歩くこと」
- 絵と絵の間を歩く様子
- ラヴェル版では最初にトランペットが印象的



主な曲

- 古城：サクソフォーン
- ひなどり：軽くすばい動き
- バーバ・ヤガー：不気味で激しい
- キエフの大門：壮大な終曲



ムソルグスキー「展覧会の絵」テスト対策ポイント

- ・ 作曲者はロシアの作曲家ムソルグスキー
- ・ ムソルグスキーはロマン派・国民楽派の作曲家として扱われる
- ・ ムソルグスキーはロシア五人組の一人
- ・ 「展覧会の絵」は、友人ハルトマンの遺作展をきっかけに作曲された
- ・ 原曲はピアノ独奏曲
- ・ ラヴェルによる管弦楽版がとても有名
- ・ 「プロムナード」は、絵と絵の間を歩く様子を表す音楽
- ・ 曲ごとに、絵の情景や人物・生き物の動きが音楽で表現されている
- ・ ラヴェル版の最初のプロムナードはトランペットが印象的
- ・ 「古城」ではサクソフォーンが印象的に使われる
- ・ 「鶏の足の上に建つ小屋」はバーバ・ヤガーと関係する
- ・ 「キエフの大門」は作品の最後を飾る壮大な曲



「展覧会の絵」の基本情報

「展覧会の絵」は、ロシアの作曲家モデスト・ムソルグスキーが作曲した作品だよ。もともとはピアノ独奏曲として作られたけれど、現在では、フランスの作曲家ラヴェルが編曲した管弦楽版もとても有名なんだ。

曲名	展覧会の絵
ロシア語原題	К а р т и н к и с в ы с т а в к и (Kartinki s vystavki)
英語題名	Pictures at an Exhibition
作曲者	モデスト・ムソルグスキー
作曲者の国	ロシア
作曲された年	1874 年
原曲の演奏形態	ピアノ独奏
有名な編曲	ラヴェルによる管弦楽版
作曲のきっかけ	友人ハルトマンの遺作展
曲の特徴	展覧会で絵を見て歩く様子と、それぞれの絵の情景を音楽で表している

実際の絵をそのまま音にしたというより、展覧会で絵を見て歩く人の気分や、それぞれの絵から広がるイメージを音楽で表した作品と考えると分かりやすいよ。



作曲家ムソルグスキーについて



「展覧会の絵」を作曲したのは、ロシアの作曲家モデスト・ムソルグスキーだよ。フルネームでは、モデスト・ペトローヴィチ・ムソルグスキーと表記されることもあるんだ。

名前	モデスト・ムソルグスキー
フルネーム	モデスト・ペトローヴィチ・ムソルグスキー
生没年	1839 年～1881 年
国	ロシア
音楽的時代	ロマン派
分類	国民楽派として扱われることがある
関連するグループ	ロシア五人組
代表作	「展覧会の絵」 歌劇「ボリス・ゴドゥノフ」 交響詩「はげ山の一夜」など

ムソルグスキーは、ロシアの歴史や民衆の生活、物語などを音楽で表そうとした作曲家だよ。西ヨーロッパの音楽をそのままねるのではなく、ロシアらしい音楽を作ろうとした作曲家の一人なんだ。



国民楽派とは

自分の国や民族の歴史、伝説、自然、民謡、踊りなどを音楽作品に取り入れ、自分たちの文化を表現しようとした作曲家たちの流れのことだよ。

ロシアでは、ムソルグスキーをふくむ作曲家たちが、ロシア独自の音楽を作ろうと活動したよ。このグループは「ロシア五人組」と呼ばれているんだ。

ロシア五人組には、バラキレフ、キュイ、ムソルグスキー、ボロディン、リムスキー＝コルサコフがいるよ。中学音楽では全員の名前まで覚える必要がない場合も多いけれど、ムソルグスキーがその一人だということは確認しておこう。

テストでの整理

ムソルグスキーは「ロシアの作曲家」「国民楽派」「ロシア五人組」「展覧会の絵」「はげ山の一夜」とセットで覚えると整理しやすいよ。

「展覧会の絵」が作られたきっかけ

「展覧会の絵」は、ムソルグスキーの友人だったヴィクトル・ハルトマンという人物と深く関係しているよ。ハルトマンは、ロシアの建築家・画家・デザイナーとして活動していた人物なんだ。

ムソルグスキーとは親しい友人だったけれど、ハルトマンは若くして亡くなってしまった。その後、ハルトマンの作品を集めた遺作展が開かれたよ。

ムソルグスキーは、その展覧会を訪れ、友人の作品を見て強い印象を受けたんだ。そして、その展覧会で見た絵や、絵を見て歩く自分自身の様子をもとに作曲したのが「展覧会の絵」なんだよ。



遺作展とは

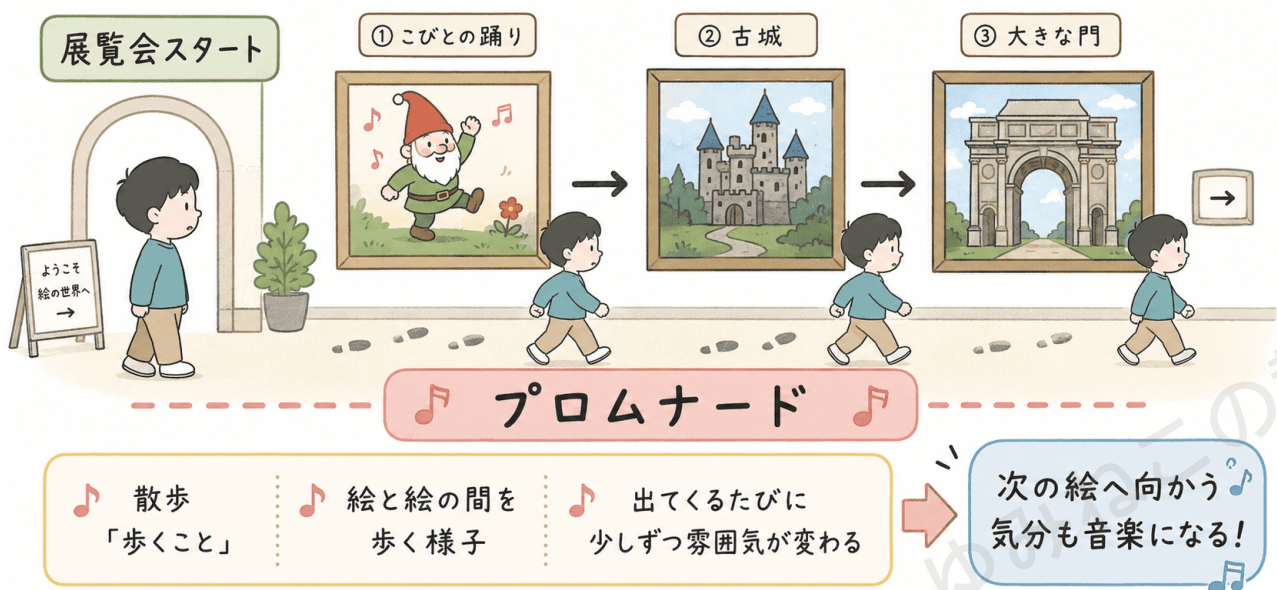
亡くなった人が残した作品を集めて開く展覧会のことだよ。

「展覧会の絵」のイメージ

美術館や展覧会で、絵の前から次の絵の前へ歩いていく。そして、ひとつひとつの絵を見ながら、そこに描かれた人物や建物、物語の世界を想像していく。「展覧会の絵」は、そんな体験を音楽で表した作品なんだ。

プロムナードとは何か

プロムナードって何？



「展覧会の絵」で特に大切なのが、プロムナードだよ。プロムナードとは、フランス語で「散歩」「歩くこと」という意味の言葉なんだ。

「展覧会の絵」では、展覧会場で、絵から絵へ歩いていく様子を表しているよ。ある絵を見終わったあと、次の絵へ向かって歩くときの気分や歩き方を音楽で表しているんだ。



プロムナードの役割

- ・ 絵と絵の間をつなぐ
- ・ 展覧会を歩いている様子を表す
- ・ ムソルグスキー自身の歩く姿や気分を表していると考えられる
- ・ 出てくるたびに、少しずつ雰囲気が変わる

プロムナードは、同じような旋律で何度も登場するけれど、毎回まったく同じではないよ。
見た絵の印象や、次に向かう気分によって、少しずつ雰囲気が変わっていくんだ。

テストで覚えるポイント

「プロムナード＝散歩」「絵と絵の間を歩く様子」と覚えておこう。

ピアノ版とラヴェル編曲の管弦楽版

ムソルグスキーの原曲

- ピアノ独奏曲
- 1874年作曲
- 1台のピアノで絵の情景を表す



ピアノ曲
→
オーケストラ曲へ

ラヴェルの管弦楽版

- オーケストラ編曲
- 楽器の音色で絵の世界を色鮮やかに表す
- ラヴェルは『管弦楽の魔術師』



作曲：ムソルグスキー / 管弦楽編曲：ラヴェル

「展覧会の絵」は、もともとはピアノ独奏曲として作曲されたよ。でも現在では、フランスの作曲家ラヴェルが編曲した管弦楽版がとても有名なんだ。



ラヴェルは「ボレロ」の作曲者としても学習する作曲家だね。オーケストラの楽器の使い方がとても巧みだったため、「管弦楽の魔術師」と呼ばれることがあるよ。

ラヴェルは、ムソルグスキーのピアノ曲「展覧会の絵」を、いろいろな楽器の音色を生かした管弦楽版に編曲したんだ。

ピアノ版と管弦楽版の違い

版	特徴
ムソルグスキーの原曲	ピアノ1台で、歩く様子や絵の情景を表現する
ラヴェルの管弦楽版	オーケストラのさまざまな楽器の音色で、絵の世界を色鮮やかに表現する

たとえば、トランペットの明るく力強い音、サクソフォーンの少しもの悲しい音、低音楽器の重い響き、打楽器の迫力などを使うことで、絵の場面がよりはっきりと浮かび上がるんだ。

区別して覚えよう

「展覧会の絵」はムソルグスキーが作曲したピアノ曲であり、ラヴェルによる管弦楽編曲が有名、という点をしっかり分けて覚えよう。



「展覧会の絵」の主な曲と情景



「展覧会の絵」には、いくつかの曲が登場するよ。ここでは、テストで特に出やすい主な曲と、その情景を確認しよう。

プロムナード

展覧会場で絵から絵へ歩いていく様子を表す音楽だよ。この旋律は、作品全体をつなぐ大切な役割を持っているんだ。ラヴェルの管弦楽版では、最初のプロムナードをトランペットが力強く演奏するよ。展覧会の始まりを告げるような、堂々とした響きが特徴なんだ。

テストポイント

「プロムナード＝散歩」「絵と絵の間を歩く様子」「最初はトランペット」は、テストで出やすいよ。



こびと

不気味で少し奇妙な雰囲気をもつ曲だよ。ぎこちない動きや、落ち着かない様子が音楽で表されているんだ。強弱の変化や、不安定なリズムによって、こびとの不思議な動きが感じられるよ。

古城

古い城の前で、吟遊詩人が歌っているような静かでもの悲しい雰囲気の曲だよ。ラヴェルの管弦楽版では、サクソフォーンが印象的に使われるよ。サクソフォーンのやわらかく、少しさびしげな音色が、古城の情景にぴったりなんだ。

テストポイント

「古城＝サクソフォーン」は、楽器の聞き取りや記述問題で出やすいポイントだよ。

テュイルリーの庭

パリにある庭園で遊ぶ子どもたちの様子を表している曲だよ。子どもたちが言い合いをしたり、走り回ったりするような、軽くてにぎやかな雰囲気があるんだ。

ビドロ

重い荷車や牛車、またはそれを引く牛のようすを表しているとされる曲だよ。ポーランド語の Bydło は「家畜」「牛」を意味する言葉なんだ。低音の重い響きによって、車の重さや、ゆっくりとした動きが表現されているよ。

卵の殻をつけたひなどりのバレエ

卵からかえったばかりのひなどりたちが、ちょこちょこと動き回るような曲だよ。短く軽い音や、すばやい動きによって、ひなどりのかわいらしい動きが表現されているんだ。



テストポイント

曲名が長いので、テストでは「ひなどり」や「卵の殻」というキーワードで出ることもあるよ。

サミュエル・ゴールデンベルクとシュミュイレ

性格の違う2人の人物が描かれているよ。一方は堂々として重々しく、もう一方は細かく早口で話すような雰囲気をもっているんだ。音の高さやリズム、楽器の音色によって、人物の性格の違いが表されているよ。

リモージュの市場

市場で人々がにぎやかに話しているような曲だよ。速いテンポや細かい音の動きによって、ざわざわした会話や活気が表されているんだ。

カタコンブ

地下墓地を表す曲だよ。重々しく、暗く、静かな雰囲気が特徴なんだ。低い音や重い響きによって、地下の広い空間や死者への思いが表されているよ。

鶏の足の上に建つ小屋

ロシアの民話に出てくる魔女バーバ・ヤガーの小屋を表す曲だよ。激しいリズムや迫力のある音によって、魔女の恐ろしさや、不気味な小屋の雰囲気が表されているんだ。

テストポイント

「鶏の足の上に建つ小屋＝バーバ・ヤガー」と結びつけて覚えよう。

キエフの大門

「展覧会の絵」の最後を飾る、とても壮大な曲だよ。現在の地名表記では「キーウ」と書かれることもあるけれど、音楽作品の曲名としては「キエフの大門」という表記がよく使われるよ。ハルトマンが描いた大きな門のデザインをもとにした曲で、堂々とした響きや



鐘のような音によって、壮大な建物のイメージが表されているんだ。ラヴェルの管弦楽版では、金管楽器や打楽器も加わり、最後にふさわしい大きな盛り上がりを作っているよ。

テストポイント

曲名・情景・終曲としての壮大さがテストに出やすいよ。

♪ ✨ 不気味な小屋から、壮大な大門へ ✨ ♪

鶏の足の上に建つ小屋

- ・バーバ・ヤガー
- ・激しいリズム
- ・不気味で迫力がある



➡

キエフの大門

- ・壮大な終曲
- ・大きな門
- ・鐘のような響き
- ・金管楽器・打楽器で盛り上がる



不気味な迫力 → 壮大なフィナーレ

《展覧会の絵》の最後の2曲は、まったくちがう雰囲気です。不気味な迫力から、壮大で華やかなフィナーレへ—ムソルグスキーの世界を感じてみよう！

テストで出やすい表現のポイント

「展覧会の絵」は、曲名や作曲者だけでなく、音楽が何を表しているかを問われやすい作品だよ。

♪ ✨ 音色でわかる『展覧会の絵』 ✨ ♪

楽器の音色で、絵の世界が見えてくる！

① プロムナード

楽器 トランペット



音色 堂々と明るい

情景 展覧会を歩き始める



② 古城

楽器 サクソフォーン



音色 もの悲しく、やわらかい

情景 古い城と吟遊詩人



③ ビドロ

楽器 低音楽器



音色 重く、ゆっくり

情景 重い荷車や牛車



④ キエフの大門

楽器 金管楽器・打楽器



音色 壮大で力強い

情景 大きな門と鐘の響き



💡 同じ『展覧会の絵』でも、楽器がちがうと、見えてくる情景や気分もちがう！



音色で情景を表す

- ・トランペット：堂々としたプロムナード
- ・サクソフォーン：古城のものの悲しい雰囲気
- ・低音楽器：ビドロの重い動き
- ・金管楽器・打楽器：キエフの大門の壮大さ

リズムや音の動きで様子を表す

- ・こびと：不安定でぎこちない動き
- ・ひなどり：軽くすばやい動き
- ・リモージュの市場：人々のにぎやかな会話
- ・バーバ・ヤガー：激しく不気味な動き

このように、曲ごとの情景と音楽の特徴を結びつけて覚えると、鑑賞問題にも強くなるよ。

「展覧会の絵」重要語句のまとめ

語句・項目	意味・ポイント
展覧会の絵	ムソルグスキーが作曲したピアノ独奏曲。ハルトマンの遺作展がきっかけ
ロシア語原題	К а р т и н к и с в ы с т а в к и (Kartinki s vystavki)
英語題名	Pictures at an Exhibition
ムソルグスキー	ロシアの作曲家。国民楽派として扱われることがある
ロシア五人組	ロシア独自の音楽を作ろうとした作曲家たちのグループ。ムソルグスキーもその一人
ハルトマン	ムソルグスキーの友人。建築家・画家・デザイナー
遺作展	亡くなった人の作品を集めて開く展覧会



語句・項目	意味・ポイント
プロムナード	散歩、歩くこと。展覧会で絵と絵の間を歩く様子を表す
原曲	ピアノ独奏曲
管弦楽版	ラヴェルによる編曲が有名
ラヴェル	フランスの作曲家。「管弦楽の魔術師」と呼ばれる
こびと	不気味でぎこちない動きを表す曲
古城	古い城と吟遊詩人を思わせる、もの悲しい曲。サクソフォーンが印象的
ビドロ	重い荷車や牛車、またはそれを引く牛のようすを表すとされる曲
卵の殻をつけたひなどりのバレエ	ひなどりの軽くすばやい動きを表す曲
バーバ・ヤガー	ロシアの民話に出てくる魔女
キエフの大門	作品の最後を飾る壮大な曲。大きな門や鐘の響きを思わせる

